

エコアクション21（2009年版）

2016年度

# 環境活動レポート

活動期間：2016年4月1日～2017年3月31日

発行：2017年7月



2017年7月4日

花菱建設株式会社

## 目 次

	頁
環境方針 . . . . .	1
事業概要（対象範囲） . . . . .	2
組織図及び実施体制 . . . . .	3
環境目標 . . . . .	4
環境活動計画の内容 . . . . .	5～8
環境目標の実績 . . . . .	9
環境活動計画の取組結果と評価、次年度の取組 . . . . .	10
環境関連法規への違反、訴訟等 . . . . .	11
代表者による全体の評価と見直し . . . . .	12

## 環境方針

我が社は地球温暖化が進む今、建設業の業務を通して、  
地球環境保全を考慮した経営に努める。

事務所・工事現場・工場の業務活動全般で発生する環境負荷低減の基本的方向性を以下に示す。

### 方 策

1. 二酸化炭素排出量削減のため、エネルギー(電気・燃料)の節約に努める
2. 排水量削減のため、節水に努める
3. 適正な廃棄物処理のため、排出抑制と再資源化に努める
4. 環境配慮のため、グリーン購入の推進に努める
5. 環境関連法規を遵守する

2016年 5月28日  
花菱建設株式会社  
代表取締役社長

住友哲也

## 事業概要

### 1. 社名及び代表者

花菱建設株式会社

代表取締役社長 住友 哲也

### 2. 所在地

本社：静岡県静岡市葵区西千代田町5番18号

静岡作業所：静岡県静岡市葵区芝原24-13

藤枝支店：静岡県藤枝市泉町52-1

藤枝作業所：静岡県藤枝市青南町4丁目19番地の3

伊豆支店：静岡県賀茂郡松崎町那賀22-1

松崎工場：静岡県賀茂郡松崎町那賀22-1

取組み対象範囲  
(全社)

### 3. 環境管理の責任者 及び 担当者

環境管理責任者：北澤 和彦

EA21委員会：大高 庄之輔、山地 清志、小長谷 徹、高村 和男、齋藤 貴宏、

EA21連絡担当者：EA21委員会事務局 城守 隆

TEL: 054-245-3366 FAX: 054-245-3442

### 4. 事業の内容

建設工事の施工、道路面・道路施設の清掃、河川・道路の維持補修業務、  
アスファルト混合物の製造及び販売

建設業の許可：静岡県知事許可（特-26）第4500号

#### ・建設業の種類

土木工事業

とび・土工工事業

舗装工事業

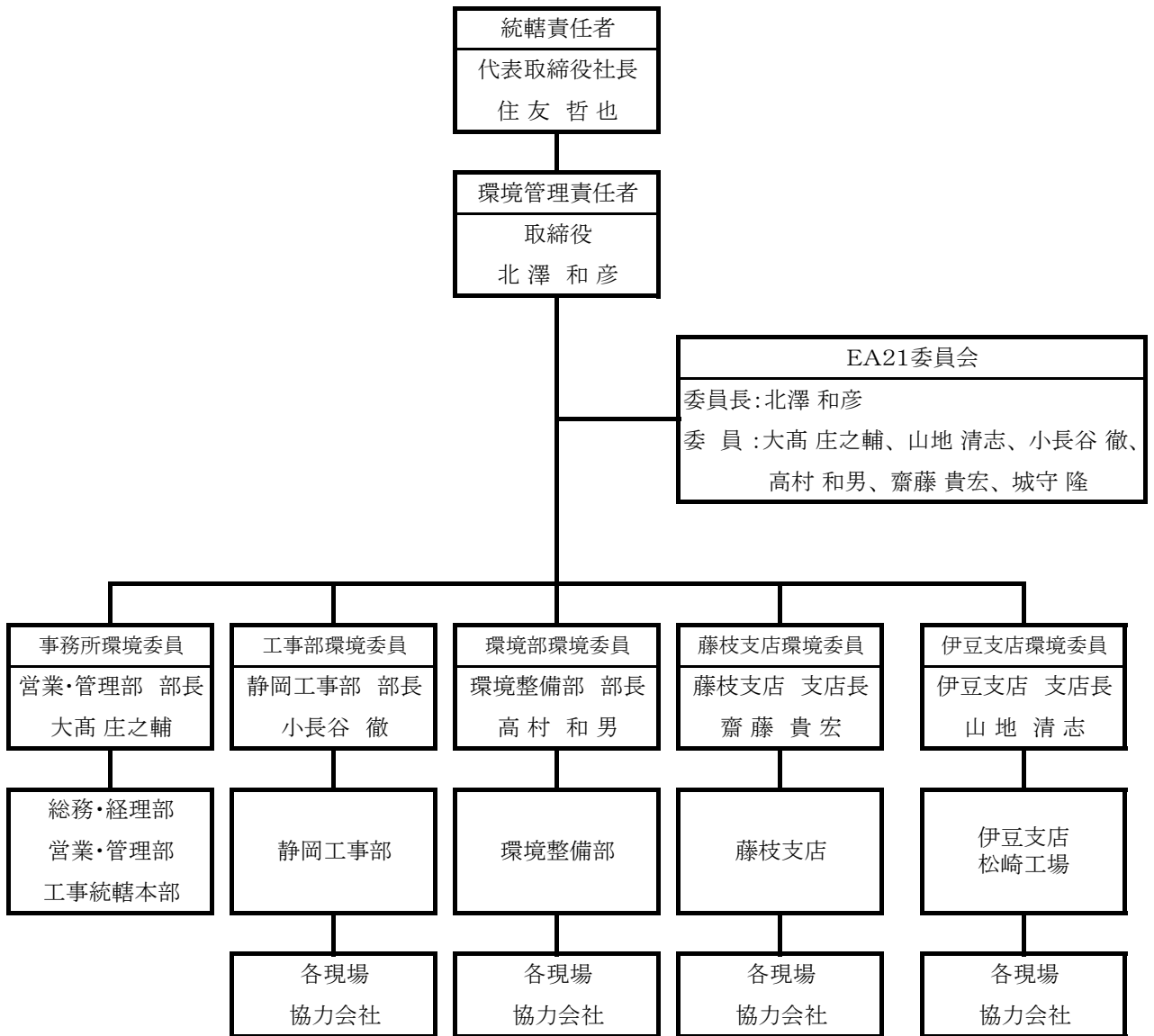
しゅんせつ工事業

水道施設工事業

### 5. 事業の規模

活動規模	単位	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
売上高	百万円	1,296	1,380	1,457	1,129
従業員	人	69	66	67	71
床面積	m <sup>2</sup>	6,936	6,936	7,077	7,077
工事件数	件	180	172	185	183
業務件数	件	20	18	18	13
アスファルト混合物 出荷量	t	4,681	4,001	3,525	5,035

エコアクション21 組織図及び実施体制



## 環境目標

### 1. 目標値の設定

項目	目標	基本データ	短期目標	中期目標	長期目標
			基本データの -3.5%	基本データの -4.5%	基本データの -5.5%
項目	単位	2010年度 (4月～3月)	2016年度 (4月～3月)	2019年度 (3年後予測値)	2021年度 (5年後予測値)
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	652,337.26	629,505.46	622,982.08	616,458.71
電力使用量	kWh	215,936.00	208,378.24	206,218.88	204,059.52
ガソリン使用量	L	85,599.17	82,603.20	81,747.21	80,891.22
軽油使用量	L	74,067.02	71,474.67	70,734.00	69,993.33
水使用量	m <sup>3</sup>	1,477.00	1,425.31	1,410.54	1,395.77
事務所ゴミ排出量	t	※ 1.58	1.52	1.51	1.49

※過去4年の平均値

### 2. 指標等（達成状況の目安）の設定

	2011年度まで	短期状態	中期状態	長期状態
		2016年度 (4月～3月)	2019年度 (3年後)	2021年度 (5年後)
A重油使用量	CO2排出抑制対策シートの月別管理表に使用量を記録している	混合物製造1ト当りの消費量のデータが把握できている	過去5年間の混合物製造1ト当りの消費データから目標値が設定できている	数値目標を設定し管理できている
産業廃棄物排出量(最終処分)	削減に向けた課題の情報を収集している	伊豆支店で最終処分量の削減に対する課題を把握できている	伊豆支店で最終処分量の削減に向けた取組が検討できている	伊豆支店で最終処分量の削減ができている
産業廃棄物排出量(再生利用)	マニフェストにより100%適正に管理している	マニフェストによる適正管理100%	マニフェストによる適正管理100%	マニフェストによる適正管理100%
化学物質使用量	試験回数と使用量を把握している	試験1回当りの使用量が把握できている	目標値を設定し管理できている	使用量抑制に向けた取組ができている
グリーン購入	事務用品は、カタログ・インターネットにより商品確認し、価格を比較して購入している	事務用品購入時は、環境配慮型商品への転換を検討できている	環境配慮型への転換を図る事務用品のリストがある	事務用品は、環境配慮型商品を優先的に購入している
自らが施工・販売・提供する製品及びサービス	アスファルト合材工場CO2排出量調査表によりデータを収集している	製造時の二酸化炭素排出量削減目標を設定するため、データの収集ができている	AS混合物1t当りの二酸化炭素排出量の目標値を設定し、活動できている	AS混合物1t当りの二酸化炭素排出量を削減できている
資源等使用量	施工計画書に社内基準(目標値)を設定している	発注者仕様より高い精度の基準を設定している	発注者仕様より高い精度の基準を設定している	発注者仕様より高い精度の基準を設定している
コピー用紙使用量 (印刷状況による使用量の妥当性評価)	目標値を設定して管理していた	受注状況に応じた妥当な使用量である	受注状況に応じた妥当な使用量である	受注状況に応じた妥当な使用量である

※ 指標を設定した項目（グリーン購入を除く）は、受注工事量・内容等により数量が変動し、定量的な目標値の設定に適さないが、実績を集計して環境レポートに記載する。

ただし、削減量等の定量的な目標値が設定可能となった場合は、1項の目標値欄に記入する。

## 環境活動計画

### 二酸化炭素排出量削減

1. 燃料の節約（燃料使用量の削減）
  - － 1. ガソリン・軽油 【**全社：車両・重機の運転業務**】
    - ① 不必要なアイドリングの禁止
    - ② 急発進・急加速の禁止
    - ③ タイヤ空気圧の確認
  - － 2. A重油 【**松崎工場：骨材湿潤化の防止業務**】
    - ① 骨材納入日の調整（ストックヤードへの材料搬入は雨天直後を避ける）
    - ② ホッパーの貯蔵管理（粗骨材残量の調整と細骨材のシート養生）
    - ③ ホッパー投入時の骨材採取の工夫（比較的乾燥した場所を選択）
2. 電気の節約（電気使用量の削減）
  - － 1. 事務設備 【**全社：事務設備使用業務**】
    - ① エアコンの設定温度 冷房  $28 \pm 1^{\circ}\text{C}$  暖房  $22 \pm 1^{\circ}\text{C}$
    - ② O A 機器等の未使用時 電源 OFF
    - ③ 昼休み、事務所不在時の消灯
  - － 2. AS混合物製造設備 【**松崎工場：AS混合物の製造業務**】
    - ① 不要時の電気モーターの停止
    - ② 不要なモーターの停止

### 廃棄物排出量削減

1. 事務所ゴミ排出（コピー用紙使用）量の削減 【**全社：コピー用紙の使用業務**】
  - ① 両面印刷の推進
  - ② 裏白紙の利用の推進
  - ③ ペーパーレス化の推進（CD・ネットワークの活用）
2. 廃棄物の適正な処理 【**全社：廃棄物の処理業務**】
  - ① 事務所で発生する再生資源の適正処理
  - ② 建設廃棄物処理のマニフェスト管理

### 総排水量削減

1. 水の節約（水使用量の削減） 【**全社：水の使用業務**】
  - ① 不必要な水の垂れ流し禁止の徹底（節水意識の向上）
  - ② 漏水のチェック

### 化学物質使用量削減

1. トリクロロエチレンの適正使用と管理 【松崎工場：アスファルト抽出試験業務】
  - ①繰返し利用による使用量の軽減
  - ②使用量・残量・保管状態のチェック

### グリーン購入

1. グリーン購入の推進 【全社：事務用品の購入業務】
  - ①事務用品購入時のグリーン製品の調達検討

### 自らが施工・販売・提供する製品及びサービス

1. 環境負荷の低減に資する製品の製造 【松崎工場：AS混合物の製造業務】
  - ①上記、二酸化炭素排出量削減の取組
  - ②製造量1トン当たりの二酸化炭素排出量の把握



平成28年度 環境活動計画 (2016年7月～2017年3月)

平成29年 3月31日

活動項目		施策(実施項目)	担当者	内容	評価	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考(責任者等)	
二酸化炭素 排出量削減	1・燃料の節約 (燃料使用量の削減)	1-1. ガソリン・軽油	① 不必要なアイドリングの禁止	使用者	環境に配慮した車両・重機等の運転	計画												責任者:各環境担当者 ・活動状況を監視、指導 ・部署会議等での周知	
						状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
						実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24		31
		② 急発進・加速の禁止	使用者	環境に配慮した安全運転意識の向上	計画														
					状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
					実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31		
		③ タイヤ空気圧の確認	使用者	給油時に空気圧を確認	計画														
					状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
					実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31		
	1-2. A重油	① 骨材納入日の調整	製造担当者	材料購入時、搬入は雨天直後を避ける	計画													責任者:工場長 ・活動状況を監視、指導 ・部署会議等での周知	
					状況	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
					実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31		
		② ホッパーの貯蔵管理	製造担当者	製造作業終了時、粗骨材残量を少なくし、細骨材ホッパーはシートで覆う	計画														
					状況	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
					実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31		
③ ホッパー投入骨材の採取	製造担当者	ストックヤードからの骨材採取は比較的乾燥した場所を選択する	計画																
			状況	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
			実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31				
2・電気の節約 (電気使用量の削減)	2-1. 事務設備	① エアコン設定温度の監視 冷房28±1℃ 暖房22±1℃	使用者	各事務所の環境担当者がエアコン運転中にチェック	計画													責任者:各環境担当者 ・活動状況を監視、指導 ・部署会議等での周知	
					状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
					実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31		
		② OA機器等未使用時の電源OFF	使用者	各機器の使用者が操作中断(30分以上)時に電源を切る	計画														
					状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
					実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31		
	③ 昼休み・事務所不在時の消灯	使用者	各事務所の使用者が昼休み等の休憩時および事務所不在時に室内照明を消灯する	計画															
				状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
				実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31			
2-2. AS混合物製造設備	① 不要時の電気モーターの停止	製造担当者	電気モーター作動の監視と必要性の把握	計画													責任者:工場長 ・活動状況を監視、指導 ・部署会議等での周知		
				状況	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
				実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31			
② 不要なモーターの停止	製造担当者	製造工程で不要となるモーターを把握	計画																
			状況	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
			実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31				

注) 状況評価は、状況欄に 良好:◎ 問題無し:○ 問題有り:× を記入し、是正・予防等の処置を行う場合赤字で表示する。 また、評価実施日も記入する。

活動項目		施策(実施項目)	担当者	内容	評価	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考(責任者等)
廃棄物排出量削減	1. 事業所ゴミ排出(コピー用紙使用)量の削減	① 両面印刷の推進	使用者	使用目的に応じて、書面の両面印刷実行	計画				←									責任者:各環境担当者 ・活動状況を監視、指導 ・部署会議等での周知
					状況	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31				
	② 裏白紙の利用推進	使用者	使用目的に応じて裏白紙を活用	計画				←										
				状況	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31					
③ ペーパーレス化	使用者	書面の電子化により紙使用量を削減	計画				←											
			状況	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31						
2. 廃棄物の適正な処理	① 事務所で発生する再生資源の適正処理	各収集担当者	新聞紙・ダンボール等の再生利用	計画				←									責任者:各環境担当者 ・活動状況を監視、指導 ・部署会議等での周知	
				状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31					
	② 建設廃棄物処理マニフェストの管理	現場担当者(工場を含む)	発行・確認・保管管理の徹底	計画				←										
状況				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31						
総排水量削減	1. 水の節約(水使用量の削減)	各環境担当者	部内の教育・ミーティング時に節水を推奨し、使用者の意識向上を図る	計画				←									責任者:各環境担当者 ・活動状況を監視、指導 ・部署会議等での周知	
				状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31					
	② 漏水のチェック	月1回、水道メーターで漏水チェック	計画				←											
状況			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31						
化学物質使用量削減	1. トリクロロエチレンの適正使用と管理	品質管理担当者	溶剤を可能な限り繰返し使用する	計画				←									責任者:作業主任者 ・活動状況を監視、指導	
				状況	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31					
	② 使用量・残量・保管状態のチェック	月1回チェック、記録簿で管理	計画				←											
状況			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31						
グリーン購入	1. グリーン購入	購入担当者	物品購入時のエコマーク製品調達の検討	計画				←									責任者:各環境担当者	
				状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
				実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31		
自らが施工・販売・提供する製品及びサービス	1. 環境負荷の低減に資する製品の製造	製造担当者	上記活動項目、1-2及び2-2の取組による	計画				←									責任者:工場長	
				状況	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31					
	② 製造量1トン当たりの二酸化炭素排出量の把握	(社)日本アスファルト合材協会の調査票に基づきCO2排出量を把握し、削減目標を設定するための月毎のデーターを収集する	計画				←											
状況			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
実施日	23	28	24	30	27	24	29	26	17	28	24	31						

注) 状況評価は、状況欄に 良好:◎ 問題無し:○ 問題有り:× を記入し、是正・予防等の処置を行う場合赤字で表示する。 また、評価実施日も記入する。

## 環境活動の取組結果と評価

### 1. 環境活動の取組結果

#### ①目標値の結果

項目	目標	期間目標	期間実績	結果 (-: 減、+: 増)	判定
	単位	2016年(4月～3月)	2016年(4月～3月)		
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	629,505.46	541,929.20	-87,576.27	○
電力使用量	kWh	208,378.24	179,719.00	-28,659.24	○
ガソリン使用量	L	82,603.20	75,825.61	-6,777.59	○
軽油使用量	L	71,474.67	62,767.96	-8,706.71	○
水使用量	m <sup>3</sup>	1,425.31	974.00	-451.31	○
事務所ゴミ排出量	t	1.52	1.11	-0.41	○

※購入電力の排出係数 : 東京電力(平成26年度) 0.505 [kg-CO<sub>2</sub>/kWh]  
 : 中部電力(平成26年度) 0.497 [kg-CO<sub>2</sub>/kWh]

#### ②指標等の結果

	2016年(4月～3月)		参考値(実績)			
	指標(状態)	結果(現状)	単位	2015年度	2016年度	前年比(%)
A重油使用量	混合物製造1ト当りの消費量のデータが把握できている	CO2排出抑制対策シート の月別管理表に使用量を記録できている	L	29,029.00	39,994.00	137.8%
産業廃棄物排出量 (最終処分)	伊豆支店で最終処分量の削減に対する課題を把握できている	削減に向けた課題の情報を収集できている	t	1.27	2.24	176.4%
産業廃棄物排出量 (再生利用)	マニフェストによる適正管理100%	マニフェストにより100%適正に管理できている	t	13,515.42	11,478.37	84.9%
化学物質使用量	試験1回当りの使用量が把握できている	試験回数と使用量を把握できている	kg	9.40	17.80	189.4%
グリーン購入	事務用品購入時は、環境配慮型商品への転換を検討できている	事務用品購入時は、環境配慮型商品への転換を検討できている	-	-	-	-
自らが施工・販売・提供する製品及びサービス	製造時の二酸化炭素排出量削減目標を設定するため、データの収集ができて	アスファルト合材工場CO2排出量調査表によりデータを収集できている	kg-CO <sub>2</sub> /t	34.22	33.36	97.5%
資源等使用量	発注者仕様より高い精度の基準を設定している	施工計画書に社内基準(目標値)を設定できている	t	33,748.15	31,803.48	94.2%
コピー用紙使用量 (印刷状況による使用量の妥当性評価)	受注状況に応じた妥当な使用量である	受注状況に応じた妥当な使用量である	枚	308,500	305,500	99.0%

※ 指標を設定した項目(グリーン購入を除く)は、受注工事量・内容等により数量が変動し、定量的な目標値の設定に適さないが、参考までに実績を記載している。

また、削減量等の定量的な目標値が設定可能となった場合は、1項①の目標値欄に記入する。

## 環境活動の取組結果と評価及び次年度の取組

主 要 項 目	評 価 ・ 判 定 結 果
二酸化炭素排出量削減	<p>・二酸化炭素排出量は目標達成でき、業務活動の効率化がうかがえ取組結果は良好。現在の活動をレベルアップするため、次年度も今年度の取組みを継続する。</p> <p>今年度の二酸化炭素排出量は前年比約5.9%増となった。AS混合物製造量が+1510トン（前年比約42.8%増）となった影響が大きい。しかしながらAS混合物1t当りの二酸化炭素排出量は前年比約9.5%減少しており、単純比較はできないが、良好に推移している。二酸化炭素排出量については、様々な複合的要因によって構成されており、必ずしも単純な比例関係にないため、個別要因を注視していく必要がある。そのため今後も現在の活動を継続し、問題点の把握と二酸化炭素排出量削減に努める。</p> <p>※電気の節約（電力前年比約1.6%増） 電力消費量は増加した。これは一昨年中旬より設置した夜間防犯設備（夜間照明灯、防犯カメラ等）の影響が考えられる。一方全体の63%を占める伊豆支店、松崎工場においては、AS混合物1t当り消費量は減少しており、問題なく推移している。</p> <p>※燃料の節約（ガソリン:前年比約2.4%増、軽油:同約3.8%減、重油:同37.8%増） ガソリン、軽油については人員、移動距離が変化し増減があるが、使用量削減に向けた取り組みに異常は無い。松崎工場（A重油）についてはAS混合物製造量と使用量が大きく増加したが、1t当りの平均消費量は減少しておりエコアクションの取組みによる効果がうかがえる。よって今年度の取組みを継続しレベルアップを図る。</p>
廃棄物排出量削減	<p>・事業所ゴミ排出量は前年比約10%増加した。完成工事高や社員数の増減などの要素も影響するため単純比較は出来ないが、コピー用紙使用量は減少しているため、コピー用紙以外の廃棄物が多かったと判断する。影響度は少ないが、前年同様に事業所ゴミ排出量削減活動に留意する。</p> <p>・産業廃棄物処理は適正処理しており、建設廃棄物が前年同様に減少できた。産業廃棄物排出量は今後も完工高、工事内容により増減が予想されるため、再生資源化率を監視し、 manifestsによる建設廃棄物管理活動を継続する。</p> <p style="text-align: center;">次年度も今年度の活動を継続してレベルアップを図る。</p>
総排水量削減	<p>・総排水量は、水使用量削減の取組により、前年比約13.1%減少と結果は良好。今年度は島田土木事務所の路面清掃受注が無かったことによる、藤枝作業所の大幅な減少が影響したと思われる。</p> <p>エコアクション21活動を積み重ねることで削減量の増加は年々厳しくなるが、社員の節水に対する意識は向上しており、今後も現在の活動を継続して行く。</p>
化学物質使用量削減	<p>・アスファルト抽出試験で使用するトリクロロエチレンは、前年比約89.4%増加した。H23年度試験回数は26回で使用量は9.4kg、試験1回当たり0.36kg、H24年度試験回数は57回で使用量は25.5kg、試験1回当たり0.45kg、H25年度試験回数は51回で使用量は9.7kg、試験1回当たり0.19kg、H26年度試験回数は57回で使用量は12.8kg、試験1回当たり0.22kg、H27年度試験回数は47回で使用量は9.4kg、試験1回当たり0.20kg、今年度試験回数は44回で使用量は17.8kg、試験1回当たり0.40kgであった。今年度は試験1回当たりで前年比+0.2kgで増加した。代替え溶剤の使用を考えているため、将来的に化学物質使用は無くなるが、それまでは次年度も活動を継続し、化学物質の適正使用と管理を継続することが重要。</p>
グリーン購入	<p>・グリーン購入は、以前から事務用品購入時のグリーン製品の調達を検討しているが、価格的な問題から、積極的に推進できていない。ただし、検討の結果、グリーン製品移行可能な物はすでに調達できていることから、取組みは良好。現状では次年度も今年度の取組みを継続し、事務用品の購入を中心にグリーン購入を推進していきたい。</p>
自らが施工・販売・提供する製品及びサービス	<p>・AS混合物製造における二酸化炭素排出量は前年比約29.2%増加したが、製造1ト当りのCO2排出量は前年比約9.5%減少した。製造量が大幅に増加（前年比約42.8%）し製造効率が改善されたことにより、上記のような結果になったと考えられる。A重油のAS混合物製造1t当りの消費量は過去8年で2番目の好成績で、A重油の適正（効率）使用がうかがえ、取組みは良好。</p> <p>今のところ、1ト当りのCO2排出量削減には年間製造量6,000トが必要で、製造量の大幅な減少があった場合、効率の悪い状態になることも考えられる。そのため節電や燃料節約を次年度以降も継続していく。</p>

## 環境関連法規への違反・訴訟等の有無

### 1. 環境関連法規等の遵守状況

環境関連法規等	規制概要	内容・基準等	遵守状況
廃棄物処理法	産業廃棄物処理	事業者の責任	遵守
		廃棄物の適正処理	遵守
		廃棄物の保管	遵守
		処分許可業者との委託契約	遵守
		契約書の保管	遵守
		マニフェストの管理	遵守
		マニフェストの保管	遵守
資源有効利用促進法 (改正リサイクル法)	資源のリサイクル	分別解体と再生資源化等の実施・報告 副産物の有効利用の促進	遵守
			遵守
			遵守
			遵守
建設リサイクル法	建設工事に係る資源の再生資源化	分別等の計画書作成	遵守
		発注者への説明	遵守
		契約書面への記載	遵守
大気汚染防止法	煤煙発生施設設置届出	法第6条第1項、県知事への届出	遵守
	煤煙の排出規制	硫黄酸化物・煤塵・窒素酸化物の排出等の基準	遵守
	煤煙の測定	測定方法・頻度、記録保存3年（施行規則第15条）	遵守
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	組織的に公害を防止	公害防止管理者（大気4種）の選任、	遵守
		県知事への届出	遵守
騒音規制法	特定建設作業	規制区域内における特定建設作業の届出	遵守
	特定施設設置	指定区域内における特定施設設置の届出	遵守
	特定施設設置の届出	指定区域内における特定施設設置の届出	遵守
振動規制法	特定建設作業	規制区域内における特定建設作業の届出	遵守
	特定施設設置	指定区域内における特定施設設置の届出	遵守
	特定施設設置の届出	指定区域内における特定施設設置の届出	遵守
下水道法	水質汚濁防止	下水道の適正使用、節水	遵守
浄化槽法	水質汚濁防止	浄化槽の清掃と記録の保存	遵守

### 2. 環境関連法規等の違反・訴訟など

#### 1) 平成28年4月～平成29年3月までの実施結果

- ・環境関連法規に対して違反はありませんでした。
- ・関係機関からの訴訟等はありませんでした。
- ・外部からの環境に関する苦情や要望はありませんでした。

#### 2) 過去3年間について

- ・環境関連法規に対する違反、関係機関からの訴訟はありません。

## 代表者による全体の評価と見直し

実施日：平成29年 6月26日

代表者：代表取締役社長 住友 哲也

### 評価と見直しのインプット

<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境活動計画の実施状況（平成28年度 環境活動計画 及び 教育・訓練計画の記録）</li> <li>・環境目標の達成状況（平成28年度 「環境活動の取組結果と評価及び次年度の取組」）</li> <li>・環境関連法規等の遵守状況（平成28年度 「環境関連法規への違反・訴訟等の有無」）</li> <li>・平成28年度（2016.4月～2017.3月）の「環境への負荷の自己チェックシート」及び「活動実績（データ）一覧」</li> <li>・是正処置、予防処置、環境コミュニケーションの記録（記録発生無し）</li> </ul>
--

### 評価と見直しのアウトプット

		判定		コメント
評価	環境システムの有効性	効果有	効果無	環境目標は全て達成できた。また環境負荷の把握、活動の特定もできており、環境システムは有効に機能している。今後も各地区・工事内容等で数値の大幅なバラツキ発生は懸念されるため、今まで以上にムダを削減する努力が必要。
	環境システムの取組の適切性	適切	不適切	目標値を達成できており、適切な取り組みが出来ている。AS混合物出荷量の増加があったが、単位当たりの製造効率改善されており、エコアクション2.1に対する意識向上が表れている。今後も継続して節約活動のレベルアップを臨む。
見直し	環境システム	改善要	改善不要	継続。ただし、2017(改訂)版の移行情報に留意すること。
	環境方針	改善要	改善不要	継続。
	環境目標	改善要	改善不要	継続。
	環境活動計画	改善要	改善不要	継続して活動し、レベルアップを図る。
	その他	改善要	改善不要	引き続き節電には留意して貰いたい。
改善指示	環境システム	有	無	過去の審査における推奨事項の対応について検討してもらいたい。
	環境方針	有	無	継続。
	環境目標	有	無	継続。
	環境活動計画	有	無	継続。
その他の指示事項		有	無	今回も活動結果（目標達成状況）を各部署へ周知すること。